

# 山辺小学校ことばの教室の実践

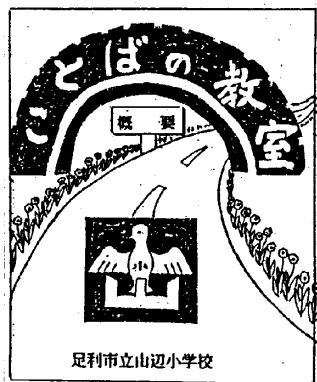
足利市立山辺小学校 岸 真佐子

金塚 英蔵

岩上 敏雄

## はじめに

ことばは、音声という一種の記号にのせて運ばれる心そのものであり、コミュニケーションの大切な手段として日常生活に欠かせないものである。とすると、もしことばが自由に話せない状況に陥ったらどうなるだろう。自分の意志が相手に思うように伝わらず大変苦しい思いや恥ずかしい思いをし、自信を失い劣等感を持ち続けるなど、その人の性格までゆがめてしまうことになりかねない。ことばの教室とは、このようなことばに問題を持つ児童に対して早期発見・早期教育を施し、社会生活への円滑な適応を援助する目的で設置された学級である。



ここで少しその歴史を振り返ってみよう。

我が国に言語障害児教育が始まったのが昭和30年頃である。アメリカの言語治療教育の成果が取り入れられ、口蓋裂手術後のアフタケアに熱心な口腔外科や肢体不自由者のリハビリ施設などから要望が高まり、研究が一段と活発になってきたのである。

教育現場においてもその影響を受け、ことばに問題を持つ多数の親達の熱心な働きかけにより昭和37年、ついに文部省通達が出され言語障害児のための特殊学級、いわゆることばの教室が各都道府県において、その後設置されるようになったのである。

本県においても、ことばに問題を持つ多くの親達は、一日でも早く我が子に正しいことばを持たせたいと切望し、なかには他県のことばの教室に通級するため、一時的に転居をする人もいたほどであった。こうした親達の熱い思いが一つにまとまり、更に大きな力となって言語障害児を持つ親の会を昭和39年7月に結成し、熱心な啓発活動と議会への陳情を幾度となく繰り返し、粘り強い運動を展開した結果、その年の10月、県議会においてついに言語障害児学級の設置が採択されたのである。

そして、昭和40年より教員養成としての内地留学派遣が始まり、昭和41年10月、宇都宮市立昭和小学校において県内最初のことばの教室が産声をあげたのである。本市においてはその後昭和43年に助戸小（現在は相生小）に、52年に山辺小、62年に山前小が開設され現在に至った。

このように、多くの親達、行政担当者、先生方の大変な尽力のもとに、幾多の苦難を乗り越えことばの教室が発足してから20数年になり、本校においても開設12年目を迎えたのである。

そこで、ここに山辺小学校ことばの教室がどのように運営され、どのような指導を行っているかについて、ありのままを記してみたいと思う。そして、学校教育の中で行われていることばの教室に対して、諸先生方の温かい御理解・御支援、御協力をいただければ幸いである。

# I 学級の概要

## 1. 学級のあらまし

### (1) 教育目標

- ア 言語障害を持つ児童に対して、その障害を除去したり、障害の性質や程度をできるだけ速やかに軽減したりすることにより、学校生活への不適応を軽減する。
- イ 指導・訓練の結果、障害はより改善されたが、ある点で限界に達した場合には、その障害を持ったままでも社会人として生きていけるような、心構えと態度が身に付けられるよう指導する。

### (2) 努力点

- ア 障害別や個人差に応じた指導や訓練方法の研究と母親相談
- イ 関係諸機関との連携や言語治療教育の啓蒙
- ウ 研修会及び各種研究発表会への積極的参加と情報の収集

## 2. 教室運営

### (1) 指導の対象

- ア 市渡良瀬川南地区の学校に通学する，下記の項目に該当する児童・生徒。
  - ・ 正しい発音のできない児童（幼児音や口蓋裂など）
  - ・ ことばの発達の遅れた児童（精薄や自閉的傾向を伴うものなど）
  - ・ 病気や後遺症のため話がよくできない児童（脳性マヒやてんかんなど）
  - ・ 話し方やリズムの速さに異常のある児童（どもりなど）
  - ・ その他（緘黙・帰国子女など）
- イ 早期発見・早期教育が問題改善の重要なポイントになるので、幼児も受け入れる。
- ウ 対象外の指導・相談として、非社会的・反社会的行動を起こしている児童・生徒（非行や登校拒否など）の教育相談も行う。

### (2) 入級手順

#### ア 児童

- ① 言語障害児早期発見のための研修会  
市教委が主催し，全市1年生担任が参加し，ことばの担当者が検査方法を説明する。
- ② ことばの検査  
全市1年生担任が1年生全員に対して行う。
- ③ 学校訪問吟味検査  
ことばに問題がみられた児童について，ことばの担任が各学校に訪問して，再度検査をする。



④ ことばの教室教育相談

訪問検査結果により、通級が必要と思われる児童を対象に、保護者同伴の来室をしてもらい、再度吟味検査を行い、相談の上通級を決定する。

⑤ 通級開始

以上の結果から入級対象となった児童については、通常4月より通級となる。

イ 幼児

① 各関係機関からの紹介

保健センター、保育所、幼稚園などから、ことばに問題を持つ幼児の紹介がある。

② 初回面談

保護者と共に来室し、一緒に遊びながら子供の発達の様子を観察したり、親からの悩みや現在までの生育情報を聞くことにより、指導の手掛かりを得る。

③ ケース会議

初回面談の結果を担当者全員で話し合い、ことばの発達の程度や母子関係の状態を把握し、今後の指導方針を協議する。

④ 通級開始

曜日、時間、担当者、使用する部屋を決定し、保護者に連絡し通級が開始される。

(3) 指導形態

ア 通級制

ことばの教室運営上、最も大きな特色と言えよう。通級者は、通常自分の所属する学級で学習し、週1～2回程度定められた曜日・時間のみ、保護者同伴でことばの教室に通うという通級制による指導をしている。

通級期間は、発音の異常で3カ月～1年、時には3年以上を要す場合もある。ことばの発達の遅れの場合、3歳前後から通い、ほとんど2～3年以上を要し、就学後も特殊学級や養護学校に在籍しながら通う児童もあり、長期化する傾向にある。

このため、1年間にさまざまな問題を抱えた児童や幼児が通級を開始したり、終了したりするため、年度途中で通級児数が変動するという変則的な問題もある。しかし、個に応じた指導という観点から考えた場合、まことに効率的で魅力あるシステムである。

※ ここで本校における通級の実態を(ア) (イ) (ウ)の表によって示してみよう。

(ア) 通級児数 (S63. 12. 1現在)

校名	学 童							幼 児 幼稚園・保育所	その他		合計
	山 辺	南	矢場川	御 厨	梁 田	筑 波	久 野		養護 学校	中学校	
数	10	2	4	8	2	2	3	30	1	0	62

(イ) 通級制に伴う時間割表 (S63. 12. 1現在)

時	1	2	3	4	5	6	7	8						
曜	部活	8:45-9:30	9:35-10:20	10:40-11:25	11:30-12:15	1:55-2:40	2:45-3:30	3:35-4:20	4:25-5:10					
月	小	Y・H	H・O	T・N	Y・T		K・T	職員会議						
	中	T・M	Y・T	M・H	K・M	Y・Y								
	大	T・O	→	H・A	→		T・H							
火	小	初級面談	ケース会議	E・A	A・U	T・H	S・E							
	中													
	大													
水	小	K・A	K・I	K・M	T・K			現職教育						
	中	K・K	→	Y・T	→	M・N								
	大	H・I	→	H・I	→	S・H	→							
木	小	R・Y	T・K	E・A		H・K	K・H							
	中	K・O	O・Y	R・K	→	N・T	N・Y							
	大	K・A	→	H・S	H・N	M・S		E・Y						
金	小	A・S		T・H	T・K		N・S	T・Y						
	中	S・M	K・Y		N・T		S・F	Y・O	→					
	大	H・H	M・S	T・F	→	T・S		A・F	→					
土	小	J・T												
	中	Y・K	K・T											
	大	A・O	→											

(ウ) 障害別通級児数 (S63. 12. 1現在)

障害	児数	口蓋裂	どもり	ことばの発達の遅れ								その他		合計
				精母	自閉	脳性マヒ	てんかん	ダウン	水頭症	聴覚の遅れ	感音	視覚		
数	22	0	1	4	10	2	3	4	1	12	2	1	62	

本校における通級の実態は、幼児が多く、ことばの発達の遅れが圧倒的に多いことが分かる。その中でも自閉的傾向及び母子関係のつまずきによるものが急増していることが言える。このように、さまざまな問題を抱えた子供が通級しているのである。

イ 個別指導

ことばに問題を持つ子供の状態像は多種多様であり、そのために必要とする学習内容も異なる。このため、一人ひとりの子供の能力及び障害の程度に合わせた1対1の個別指導が必要となる。

普通学級で使用する教科書、指導書といった決められた指導内容や指導計画はないが個に応じた指導方針を立て、使用する部屋を決め、教材を準備し、子供の興味や能力に合わせ、試行錯誤しながら行っているのが実情である。

ウ 保護者の付き添い

通級は、交通事情を考慮し、原則として保護者の付き添いを必要とする。方法も、徒歩で、自転車、自家用車でとさまざまであり、母親と子供が手をつなぎ、笑顔で来るのは大変ほほえましい。

このため、担任にとっては毎日が授業参観であり、共同保育であり、子供を中心とした家庭と学校の連携の話し合いの場でもあり、担任としても学ぶ点が大変多い。

## II 指導の実際

### 1. 発音異常 — A男の事例より(小2・男) —

#### (1) A男の発音

A男は5歳5カ月から通級を始め、現在はB小2年である。当初は誤った音が多く、親にもよく分からず、聞き返すと黙ってしまうということであった。通級も回を重ねるごとに発音が大変明瞭になり、現在は、サをツァ、シをチ、スをツ、セをツェ、ソをツォと誤るのみになった。

#### (2) 家庭での様子

母親は、A男と一緒に過ごす時間を意図的に確保しようと努め、1日30分位は、ゲームをしたり、話をしたりしている。

ことばについては、十分配慮しているようだが、時々、聞き返したり、言い直しをさせてしまうこともあるようだ。

#### (3) 学校での様子

先生や友達への話しかけも多く、おしゃべりな方である。授業中も恥ずかしがらずに発表したり、作業においても指示通りできる。

ことばのことでクラスの友達に笑われることはほとんどなく、毎日元気に登校している。国語の音読は、一文字ずつ区切れてしまうこともあるが、徐々に速くなってきた。

#### (4) 指導方針

A男の場合、発声、発語器官及び聴覚の異常や生育上特に問題となることはないと思われるので、次のような方針を立てた。

- A男との信頼関係を深め、楽しく指導ができるように遊びを取り入れる。
- 2年生であるため、A君に合った易しいことばかけをし、分かり易く簡単な指導を心がける。
- A男の性格が、萎縮し、情緒が不安定にならないよう、できること、できそうなことから始め、頑張ったことや、少しでも良くなったところを見逃さずにほめ、自信をつけさせる。
- サがツァになることは、舌の動かし方が未熟なことが考えられるので、ウェフェースを使って、口の回りや歯茎につけ、自由に取れるような舌の体操を行う。
- サとツァのような微妙な音の違いを正しく聞き分けられることが、正しく発音するために必要であるから、聞き分け練習を十分に行う。
- 発音する時に、舌の動きがやや不安定なため、舌の中央部に玉子ボーロを乗せて、落ちたり、動いたりしないように母音の練習を行い、舌の安定を図る。
- サがやや出かかっているため、最初の指導音をサとする。
- A男の発音が少しでも良くなるように、家庭や学校と連絡を取り合いながら行う。

(5) ことばの教室での指導 (59回目 昭和63年12月15日)

ア 目標 指示内容を正しく理解し、サ行の発音練習を楽しく行う。

イ 展開

ねらい	児童の活動	指導上の留意点	準備・評価
1. 本児との信頼関係を深める。	○すごろくゲームを行う。	○母親と一緒に三人で楽しく行う。	○すごろくゲーム
2. サ行が正しく聞き分けられるようにする。	○○×ゲームを行う。 サ行の単語カードを用意し、正しく発音した時は○の旗、誤った発音をした時は×の旗を上げる。	○語頭を中心に行う。 ○サルーツァル× ○セミーツェミ× などのように言い楽しくゲーム的に行う。	○単語カード ○○×の旗 ○正しく聞き分けることができたか。
3. 発声・発語器官の能力を高める。	○ペロペロ体操を行う。 口の回りや、歯茎にウェフェースの小片を付け、舌の先で取るゲームを行う。	○取れそうもない時は付け直すか、鏡を見て行わせる。 ○取れた時はほめてやり意欲付けを図る。	○ウェフェース ○楽しくペロペロ体操ができたか。
4. 正しい発音方法を覚える。	○サの発音をする。 耳で正しく聞き分け、舌の動きが滑らかになった時点で行う。	○担任が、サを発音する口の構えと舌の位置を見せ、実際に発音し、聞かせてから行う。 ○自分で自分の発音の誤りに気づき正しく発音できるように援助する。	○鏡 ○口の構え、舌の位置は正しかったか。 ○正しく発音しようとしていたか。
5. 本児や母親との信頼関係を深める。	○今日のまとめをする。	○今日の良かった点を本児と母親に伝え、気持ち良く終了させたい。	○明るい笑顔が見られたか。

ウ 評価 担任と子供とのやりとりの中で楽しく発音指導ができたか。

自分の発音の誤りに気づき、正しい発音をしようとしていたか。

(6) 現在の状況

舌の動きも徐々に滑らかになり、母音を発音する時も舌が安定してきた。サの発音方法を視覚的に理解したので、正しいサの発音回数が増えてきた。

### (7) 母親との協力

家庭においても、A男が誤った発音をした場合、それを気にせず話ができるような温かい配慮が必要である。また、正しい発音をするために、口唇や舌などの発声・発語器官の能力を高めることも必要である。そこで、母親と家庭においてもできそうなことを話し合い、次のようなことをお願いしたところ、母親は大変協力的であった。

#### 心 が け メ モ (※○は子供 ●は親)

- 三度の食事をきちんととり、ゆっくり噛んで食べましょう。
- 歯みがきをした後は、ガラガラうがいをしましょう。
- 吹く遊びもしましょう。(風船・ハーモニカ・笛・シャボン玉など)
- ガムなども時々噛みましょう。
- 子供のレベルに合ったことばを使い、ゆっくり、はっきり話してあげましょう。
- 子供の話はできるだけ最後まで聞いてあげましょう。発音がおかしくても、「もう一度言ってごらん。それおかしいよ。」などとは言わないようにしましょう。
- 食時の時など、一日の様子を聞き、できたこと、頑張ったことなど、良いことを見つけてほめ、自信をつけてやりましょう。

### (8) 担任との協力

集団教育場面での対応も重要である。授業中一生懸命考えたことを期待と不安の中で発表したものの、発音の誤りを笑われてしまった場合、子供の心は大変傷つき、ことばに対して劣等感を抱き自信を失う。このため、このような子供達に対して、担任の温かい配慮が必要になってくる。

そこで時々、担任と電話や手紙で連絡を取り合い、ことばの教室での様子、普通クラスでの様子を話し合うこともある。A男の場合、担任の温かい配慮があり、学校内では、ことばのことでほとんど笑われたりしていないようである。

ここで担任がクラスの中で具体的に配慮している様子を手紙に頂いたので紹介してみたい。

いつも大変お世話になっています。参考になるかどうか分かりませんがA君のノートから、発音の誤りは表記の誤りによるのではないかと思われるものをいくつか取り出してみました。(別紙)

今日も国語の時間、指名読みをさせました。指名する私の方も大変ドキドキしますし悩みます。でも今日は短い文だったので、思い切って指してみました。そうしたら期待以上によく読めました。

少しずつ発音もはっきりして上手になったなあとと思っています。これからもよろしくお願ひします。

1 2 月 3 日 A男の担任より

## 2. ことばの発達の遅れ — B子の事例より(3歳10カ月 女) —

### (1) B子のこと(2歳7カ月の時)

#### ア 初回面接時の観察

- 時々発声があるのみで、ほとんど発語はみられない。
- 人の目を見ようとせず、声をかけてもほとんど振り向かず、一人で遊んでいる。

#### イ 母親からの話

- 小さい時からあまり泣くこともなく、手のかからないおとなしい子だった。
- 母親のすることを見てまねをしようとする気持がなく、教えようとしても聞く気がないのでしつけが思うようにできない。
- 母親に甘えることがなく、ぶつかってもあまり泣かず、嬉しそうな時でもあまり笑わず、表情に乏しく、自分の気持ちを素直に表現しようとしなない。
- 人ごみで手を離すと、どこへ行くか分からないし、迷子になっても母親を捜そうとしない。
- 抱きぐせや添い寝は悪いと聞いていたので、あまりしなかった。
- アーウーという快い発声も少なく、人見知り、指さしもほとんどなかった。兄もことばが遅かったので心配していなかったが、1歳6カ月の時におかしいと気づき、以後、ことばかけを多くしたつもりであった。しかし、遊び方が分からなかったので一人で遊ばせておくことが多かった。

### (2) 所見

ア 発語と対人関係に1歳以上の遅れがある。

イ 原因として考えられることは、現在までに母親との触れ合いが少なかったため、母子のつながりが弱く、自分から要求を出さない子になってしまったのではないか。

- また、母親として子供とどう接していくかという心構えや方法が分からないまま過ごしてきたことにも大きな関係があると思う。
- その背景としては、母親の情緒が不安定にならざるを得ない状況がたくさんあったことや、住居が道路に面しているため、子供の遊び場を限定しなければならず、禁止や命令の中で子供を育ててしまったことも予想される。

### (3) 指導方針

ことばとは、母親と子供の楽しいやりとりを通し、お互いの信頼関係が深まるなかで、子供の情緒が安定し、自信と意欲が湧き、母親のすることを何でもまねしてみよう。そして覚えようとする心が育ち、そのまねの一つとして、ことばの出現があるのである。だから、お互いの信頼関係を築くことから始めなければならない。このため、次のような方針を立てた。





- B子主体の遊びを展開し、ことばの発達を待つ。

B子の意思を尊重し、自分のやりたいことを見つけさせ、教師や親が合わせていくというB子主体の遊びを展開していきながら、できたこと、頑張ったことをほめ、励ますことにより、お互いの信頼関係を深めていきたい。

こうして、ことばの教室に来ると自分の好きな遊びができる。いつも快く相手をしてくれる人がいるので楽しいという体験が続く中で、B子の人に対する不安や緊張が徐々に解け、情緒が安定し、自信と意欲が湧くと思う。そして、一人遊びよりも人と一緒に遊ぶことが楽しくなり、自分から自然に人とかかわりを持ちたくなり、それがA子の発声・発語につながっていくのではないかと考えた。

つまり、B子が現在までにできなかったことを再育児（育て直し）するのである。

#### (5) 指導過程

- 1-5回 ことばの教室に来て依然として表情は固く、視線も合わないことが多い。こちらからの働きかけに応じようとせず、後ろを向いたり、部屋の隅の方に逃げてしまう。自分がどうしてよいか分からない様子である。
- 6-8回 母親とのやりとりが少しずつできるようになり、表情にも落ち着きがみられてきた。時々視線が合うようになり、自分からやりたいことを要求することが何回も見られた。人見知りも始まってきたようである。
- 9-11回 担任との信頼関係がつきはじめ、手をつなぎ一緒に歩いたり、抱っこしたりした。追いかけると嬉しそうな顔をして走ったり、跳ねたり、また、母親にまわりつく姿もみられた。快い発声も何度かあった。
- 12-15回 一つのおもちゃで2、3分遊ぶと資料室に行って次のおもちゃを選んで持ってきて遊ぶというように、急に色々なものに興味を持ち始めてきた。きっとここがA子にとって居心地の良い場所になり、自分からの要求が、安心して出せるようになったのだろう。



特によく遊んだもの  
スベリ台、自動車乗り、ブランコ  
大ボール乗り（左写真）、毛布ゆすり  
トランポリン、ミニレール、カラオケ  
折り紙、モグラたたき、ボーリング  
ゲートボール、ドラエモンの人形投げ  
ままごと、水遊び、ケン玉

あまり遊びに夢中になり、家に帰りたくないと泣いて母親に甘えることもあった。

- 16-19回 母親や担任のすることをまねることが多くなり、スベリ台についてきてすべったり、絵を描こうとすると一緒にチョークを持ったりした。また、やりたい遊びは、自分から指さしをして要求するようになった。

○20-23回 話が少しずつ聞けるようになり、指示も分かり始めてきた。名前を呼ぶと手を挙げたり、手招きすると近寄ってきたり、こちらの誘いにもものようになる、型はめや絵カードなどでも遊べるようになった。

ことばも「パパ、ママ、ワンワン、ブーブー」など簡単なものがいくつか出始めたため、母親は大変喜んでいて。

#### (6) 現在の様子

○ 気持ちの良い時は快い発声をし、悲しい時は甘えて泣き、行きたい所やほしい物については指さしをするというように、自己を素直に表現できるようになった。

○ ことばも更に増えつつある。「目。手。耳。目。赤。青。ボン。シェー。ハイ」など発語し、絵カードを見せると知っているものについては、発音しようとしている。

また、ことばの理解については、自分の身の回りにある物の名前などは、かなり知っていて、絵カードを見せて、「リンゴをちょうだい」などというところを取ることができる。

○ 担任や母親の身振り、手振り（バイバイ、バンザイ、キョンシー、シュワッチ、バンザイ、ジャンケン）などをそっくりまねをして喜ぶことが多くなった。

○ 指示もよく通るようになり、担任や母親の要求も受け入れるようになってきた。

以上のように、B子の情緒が安定し、動きも活発になり、発声、発語も増え、人とのコミュニケーションも徐々にとれるようになってきた。

#### (7) 母親との協力

ことばの発達に遅れがある子供の場合、週1回ことばの教室に通級するのみで改善されることはまずない。日常生活の大部分を家庭で過ごすため、そこでの言語環境が改善されることが必要であり、特に母親の接し方が重要になる。

B子の母親の場合、当初から比較すると表情が大変穏やかになり、接し方も大変温かくなった。子供をきつく叱ったり、自分の思い通りにしようと無理強いしたりすることもなく、子供の良い点を見つけてほめることが多くなってきたようである。

しかし、すべて順調に進展したわけではない。母親は当初ことばの教室に来ることを好ましく思わず、時々休むことがあった。ここに週1回通い、ただ遊んでいるだけで本当にことばが出るのだろうかという素朴な疑問を抱き、時間の無駄ではないかと思っただけ。

そこで担任としては、子供と一生懸命かかわることで、子供に少しでも成長の兆しが見えれば母親も納得してくれるのではないかと考え、楽しく遊ぶことに徹底した。そのかいあって徐々に人見知り、指さし、まねなどが始まり発声も増えてきたので母親も何かを感じとったらしい。きっと、子供の気持ちを大切にしながら受容的な態度で接すること、一緒に楽しく遊ぶことを通してお互いの信頼関係を深めることが、子供のことばの発達につながることを認め、家庭においても実行してくれたのだと思う。

このように、B子の母親は子供のためによりよい母親になろうと努力している立派な母親であり、現在までの奮闘ぶりには本当に頭の下がる思いである。

### Ⅲ その他

#### 1. ことばを育てる親の会

ことばの発達の遅れた子供を持つ多くの親達は、自分の子供の問題に気付いた時から大変苦しい思いをしている。障害のある子供を産んだこと、発達に遅れを生じさせるような育て方をしてしまったことに罪悪感を抱き、自分を責めて悩むことが多い。そして、子供の育て方や就学等も含め、将来のことに不安と焦りを感じ、自分自身も情緒不安定になりやすい。

そこで、同じような悩みを持った親達が集まり、お互いに助け合ったり、学び合ったりする目的で結成されたのが「ことばを育てる親の会」である。

今年度は、下記のような年間計画を立て、教師も共に活動した。

月	場 所	内 容	
5月	相生小	市ことばを育てる親の会総会	関口先生（小児科医）講話
8月	佐野唐沢 青年の家	県南療育キャンプ（1泊2日）	西田先生（元山辺小校長） 講話、レクリエーション
11月	渡良瀬川	親子レクリエーション大会	じゃぶじゃぶ池での遊び サイクリング
12月	藤原町	県療育キャンプ	谷先生（学芸大教授）講話
3月	足利養護学校	ボランティア活動	おむつたみ

#### 2. 職員研修

ことばの教室が少ないため、研修は主に県レベルで進められている。

ここで年間を通して定期的に活動している「県南言語担任者研修会」について紹介してみたい。県を県北、県央、県南の三つに分け、県南は、山前小、相生小、山辺小、佐野小、栃木二小、小山第一小、壬生東小の7校、職員19名で1つのブロックを作り、年間計画を作成し活動している。事例研究を主に行い、今年度のテーマは「言語発達遅滞児（ことばの発達の遅れた子）の指導」であった。

月	場 所	研究授業者	そ の 他
6月	相生小	松場教諭	こころみ学園見学 年間計画作成
7月	山辺小	岩上教諭	県南療育キャンプ の打合せ
8月	唐沢山	県南療育キャンプ参加	
12月	小山一小	森泉教諭	ことばの教室運営 上の諸問題の話し 合い
2月	佐野小	林教諭	1年間の反省



足利市立教育研究所

### 3. ことばの教室の啓蒙

ことばの教室の啓蒙として、「ことばの教室だより」を月1回発行している。内容は、ことばの育て方に関することを主とし、行事予定やお知らせなども書く。配付先は、通級児の親、通級学区の小学校・保育園・保育所・幼稚園、そして、山辺小職員である。

ここでその一例を紹介しよう。



#### ことばの教室だより

昭和63年7月 98号  
足利市立山辺小学校 ことばの教室

#### 心の根を・・・

梅雨に入り、アジサイの花が、梅雨空に鮮やかに目にしみるこの頃です。

花は咲いているときには、「ああ、きれいな花だな。」と、感嘆の声を出して愛でてくれます。

でも、きれいに咲いている期間は、長くても10日間ぐらいです。後の3百何十日は、木に聞きながら、ひたすら水を上げる単調な作業の連続です。

「この木は、いま水をたくさん欲しがっているな。」

「この木には、肥料をあげなくて。」

と、一本、一本の木に聞きながら、水を上げたり、肥料を上げたり心がけているのです。

このように心配りをしていても、つい早く育てて欲しいという願ひから、水を上げ過ぎたり、肥料を上げ過ぎたりして、かえって木を弱らせてしまうことがあります。

木を思いやる根を育てるということを忘れてしまうものなのです

子供たちにも、この一番大切な心の根を育てるということを忘れずに、一緒に学んでいきたいと思っております。

#### ※ご協力ありがとうございました※

今年も6月に、言語障害児早期発見検査が、1年生を対象に行われました。先生方のご協力で、発音や話し方に問題がありそうな子供（渡良瀬川南地区）たちが、29名も救えられました。

おとなから見れば、重大な欠点とは思えないものでも、その子にとっては、「早く指導を受け、早く解決してもらいたい。」と、思っていることもあるのです。そんな子供の気持ちを察して、丁寧に見つめてくださった先生方に感謝いたします。

その後、ことばの教室職員が、各学校を訪問して詳しい検査を行いました。その結果ことばの指導を受けたほうが良いと思われるお子さんの人数は、下記の通りでした。

これらのお子さんについては、夏休みにそのお子さんへの指導や、改善の見通しなどについて、保護者の方がたと相談することになっていま

校名	南小	北小	東小	西小	東小	久小	南小	合計
人数	7	2	1	0	1	2	6	19

※後日、各ご家庭宛のお手紙を学校宛にお送りしますので、該当児の担任の先生方は、誠にお忙しいところすみませんが、面談日時についてご父兄の方に、ご連絡の労をとってくださいますようお願いいたします。

#### 7月—8月の行事予定

7月4、5日(月、火) 出張のため(岩上)1日休室

7月7日(木) 出張のため(金塚)1日休室

18日(月)

20日(水)

東南言語担任者研修会のため1日全員休室

終業式 1日全員休室

7月21日(木)から8月26日(金)まで夏休み

※8月29日(月)より指導開始の予定です。

#### 療育キャンプ

8月2日から3日にかけて、唐沢青年の家(佐野)で行われる予定です。楽しい計画がイッパイありますよ。



#### おわりに

私達担当者3名は、ことばに問題を持つ児童の指導に取り組んで日も浅く、一人ひとりの子供へのかかわり方を試行錯誤している毎日である。しかし、自分の担当している子供の発音が徐々に正しく改善されたり、ことばの発達の遅れた子に少しずつことばが増えてきたりすると、私達なりにこの子供達に対して、ささやかな援助ができたのだという自信が生まれ、生き甲斐を感じる。

そして、人の気持ちを受け入れ、共に触れ合う中で人の良い点を見出し、認めていきながらお互いの信頼関係を深めていくことが大切であり、この信頼関係の確立こそが、子供、いや人間にとってすべての発達・成長の出発であるような気がする今日この頃である。この温かい思いやりの気持ちを持って人に接することを忘れず、今後も指導を続けていきたい。

## 評

「ことば」は自分の心を表現するための最も有効な手段であるとともに、相手を理解し、人と人との結びつきを深めるなど、人間生活の根幹をなす大切な役割を果たしています。

通常の教育においては、多くの場合「ことば」を媒体として教育が行われ、ほとんどの子供たちは自由に「ことば」を使いこなしますが、子供によってはこれをうまく使えない子もいます。そのような場合、教育が成立しにくくなることが多く、その子の人格形成上に大きな影響を残すこととなります。

人間関係を基盤とした、その子の心の状態が「ことば」に大きく影響するとともに、自分の心を「ことば」に表現できないと様々な障害が起こることはよく知られています。

「ことば」は、これを表出することで自分を守る役割を持っているとともに、表出しないことで自分を守る役も持っています。このように考えると、「ことば」は心の状態を示すバロメーターであるといえます。

この研究は、上記のような観点から、人間関係のあり方とことばの発達、ことばが人格形成に及ぼす影響など、ことばの指導の基本的な考え方を押さえ、保護者との暖かい信頼関係をもとに連携を深め、一人の子供をしっかりと見つめた研究の様子が伺えます。

「ことば」の指導は地味ではありますが、教育の原点であり人間生活の基盤づくりとしての重要な役割を果たしているといえます。